

ツチガエル飼育の経緯と繁殖

○桐生 大輔
(横浜市立金沢動物園)

ツチガエル *Rana rugosa* は国内では本州、四国、九州および周辺の島（佐渡島、隠岐、五島列島、壱岐、屋久島、種子島など）に分布する。神奈川県レッドリストでは要注意種に指定されており、生息環境の悪化が著しく、本種の姿が急激に失われつつある。

2020年、横浜市繁殖センターがツチガエル野生復帰計画を作成した。その計画に基づき、2020年9月30日に3ペア計6頭を金沢動物園に導入し、現在も飼育繁殖を行っている。飼育水槽は動物病院育雛棟の一部屋に用意した。照明は横浜市の日照時間に合わせて照明時間を月ごとに変更した。2021年7月12日に産卵、7月14日、孵化を確認した。幼生は草食熱帯魚用飼料などで育成し、完全に変態が終了した幼体は幼体飼育水槽に移動させた。

四季のある1年を通した気温の変化のサイクルを作ることなく、日照時間の調節と水位変化、霧吹きによる散水のみで繁殖に成功した。しかし、尾曲がりの幼生が多く、成体、幼生の飼育水に添加するミネラルなど来年以降の課題ができた。今後は飼育繁殖マニュアルを作成し、繁殖センターのツチガエル野生復帰事業に今後とも協力していく。